資治通鑑 第 117 巻

令和 3 年 12 月 30 日

【晉紀三十九】起旃蒙單閼，盡柔兆執徐，凡二年。

■東晋、●北魏、▲北燕、続国訳漢文大成．経子史部 第 7 巻-146p

安皇帝壬義熙十一年（乙卯，４１５年）

【劉裕は荊州刺史の司馬休之討伐】

●春，正月，丙辰（２日），魏主の嗣は平城（柔然戦より帰還）に還る。

■［司馬休之討伐に黄鉞］太尉の**裕**は**司馬休之**の次子の**文寶**、兄の子の**文祖**を収め，並びて死を賜う。兵を發して之を擊つ。詔して**裕**に黄鉞を加え，荊州刺史を領せしむ。庚午（４日），大赦す。

■丁丑（２３日），吏部尚書の**謝裕**を以て尚書左僕射と為す。

■［劉裕の兵は発し、司馬休之は迎撃態勢］辛巳（２７日），太尉の**裕**は建康を發す。中軍將軍の**劉道憐**を以て留府事を監ぜしめ，**劉穆之**をして右僕射を兼ねしむ。事は大小と無く，皆な**穆之**が決す。又た高陽内史の**劉鐘**を以て石頭の戍事を領せしめ，冶亭（江蘇省金陵道江寧県、現・南京市江寧区）に屯す。**休之**の府の司馬の**張裕**、南平太守の**檀范之**は之を聞き，皆な逃げて建康に歸る。**裕**は，**邵**（115 巻義熙五年にあり）之兄也。雍州刺史の**魯宗之**は自ら太尉の**裕**の容れる所と為らざるを疑い，其の子の竟陵太守の**軌**と兵を起こして**休之**に應じる。(7-147p) 二月，**休之**は上表して**裕**を罪狀し，兵を勒して之を拒む。

■［韓延之の辱疏］**裕**は密かに書して**休之**の府の錄事參軍の南陽の**韓延之**を招き，**延之**は復書して曰く、「親しく戎馬を帥いて，遠く西畿を履むを承わり，闔境の士庶は，惶駭せざるは莫し。（何となれば帥出だすの名を知る莫きが故なり）疏を辱なくも，**譙王**の前事を以てするを知り，良く歎息を增す。**司馬平西**（休之は平西將軍）は國を體して忠貞にして，款懷（誠実な心）にて物を待つ。公が匡復之勳有り，家國賴（信賴）を蒙るを以て，德を推し誠を委ね，事毎に詢仰（諮詢仰望）す。**譙王**は往に微事を以て劾（彈劾）せ見れ，猶ほ自ら表して位を遜る。況んや大過を以てし，而も當に嘿然たる邪！前に已に表奏して之を廢し，盡きざる所の者は命耳。推寄（赤心を推して人の心中に置く）して相い與にするは，正に當に此くの如し。而るに遽に兵甲を興し，所謂『之に罪を加えんと欲せば，其の辭無からん乎！』（左傳の大夫里克の言）。**劉裕**の足下，海内之人は，誰か足下の此の心を見ざらん，而るに復た國士を欺誑せんと欲する！來示に云う『懷に處き物を期する，自ら由來有り』，今人之君を伐ち，人に啖わするに利を以てし，真に謂う可し『懷を虛しくして（「晉書宗室傳」にて修正、-+處）物を期する，自ら由來有る』者を乎！**劉籌**は閶闔之門に死し（前巻義熙八年），**諸葛**（長民、前巻八年）は左右之手に斃れる。甘言（前巻義熙八年、劉毅の件）は方伯を詫き，之を襲うに輕兵を以てす。遂に席上に款懷（誠意）之士靡き，闔（戸のしきみ、敷居）外に自ら信ずるの諸侯を無から使め，是を以て算を得たりと為す，良に恥ず可き也！貴府の將佐及び朝廷の賢德は，命を寄せ日を過ぎる。吾は誠に鄙劣なれども，嘗て道を君子に聞く，平西之至德を以て，寧ぞ命を授ける之臣無かる可けん乎！必ず未だ自ら虎口に投じ，跡を**郗僧施**之徒（前巻義熙八年）に比する能わざることは明らか矣。假令（もし）天が喪亂を長じ，九流（学派、儒家・道家・法家・陰陽家・名家・墨家・縱横家・雜家・農家の各流）渾濁すれば，當に臧洪（60 巻漢の獻帝興平二年）と與に地下に游ばん，復た多言せず。」（之までの劉裕の仕打ちを痛烈に批判）

裕は書を視て歎息し，以て將佐に示して曰く、

「人に事えるは當に此くの如し矣！」

延之、**裕**の父の名は翹，字は**顯宗**なるを以て、乃ち其の字を更えて**顯宗**と曰い，其の子に名づけて**翹**と

曰い，以て**劉氏**に臣ならずを示す。
●琅邪太守の**劉朗**は二千餘家を帥いて魏に降る。
●庚子（１６日），河西胡の**劉雲**等は數萬戸を帥いて魏に降る。
■［劉裕の婿の徐逵之の戦死に逆上］太尉の**裕**は參軍の**檀道濟**、**朱超石**をして步騎を將いて襄陽に出でしむ。**超石**は，**齡石**之弟也。江夏太守の**劉虔之**は兵を將いて三連（湖北省襄陽道京山県、現・荊門市京山市）に屯し，橋を立て糧を聚めて以て待ち，**道濟**等は日を積みて至らず。**魯軌**は**虔之**を襲擊して，之を殺す。**裕**は其の婿の振威將軍の東海の**徐逵之**をして參軍の**蒯恩**、**王允之**、**沈淵子**を統べて前鋒と為し，江夏口（湖北省荊南道公安県、現・荊州市公安県）に出で使む。**(7-148p)逵之**等は**魯軌**と破塚に戰い，兵は敗れ，**逵之**、**允之**、**淵子**は皆な死し，獨り**蒯恩**は兵を勒して動かず。**軌**は勝ちに乘りて之を力攻し，克つ能わず，乃ち退く。**淵子**は，**林子**之兄也。
■［劉裕は自ら岸の崖を登らんとし、遂に江陵の克つ］**裕**は馬頭（江の南、江陵の江津戍の対岸、現・荊州市公安県）に軍し，**逵之**の死を聞き，怒り甚し。三月，壬午（２９日），諸將を帥いて江を濟（わた）る。**魯軌**、**司馬文思**は**休之**の兵四萬を將いて，峭（けわ）（切り立つ）しい岸に臨んで陳を置き，軍士の登る能う者無し。**裕**は自ら被甲して登らんと欲し，諸將は諫め，從わず，怒りは愈々甚し。太尉の主簿の**謝晦**は前みて**裕**を抱持し，**裕**は劍を抽いて**晦**を指して曰く、
「我は卿を斬らん！」
晦は曰く、
「天下は晦無くとも可なり，公無ければ不可なり！」
建武將軍の**胡籌**は遊兵を領して江津に在り，**裕**は**籌**を呼んで登ら使め，**籌**は疑色有り。**裕**は左右に命じて錄（とど）（收める）め來さしめ，之を斬らんと欲す。**籌**は顧みて曰く、
「正に賊を撃たんと欲す，教を奉ずることを得ず！」
乃ち刀頭を以て岸を穿ち，劣（わず）かに足指を容れ，之に騰（のぼ）りて而して上り，之に隨う者は稍々多し。既に岸を登り，直ちに前みて力戰す。**休之**の兵は當たる能わず，稍々引いて卻（しりぞ）く。**裕**の兵は因りて而して之に乘り，**休之**の兵は大きく潰（つい）え，遂に江陵に克つ。**休之**、**宗之**は俱に北に走り，**軌**は石城に留まる。**裕**は閫中侯の下邳の**趙倫之**、太尉の參軍の**沈林子**に命じて之を攻めしむ。武陵内史の**王鎮惡**を遣わして舟師を以て**休之**等を追わしむ。
■群盜の數百有りて冶亭を夜襲し，京師は震駭す。**劉鐘**は討ちて之を平らぐ。

後秦［廣平公の弼の内肛激化］秦の廣平公の**弼**は**姚宣**（前年弼の罪を力言せり）を秦王の**興**に譖り，**宣**の司馬の**權丕**は長安に至り，**興**は輔導の能わずざるを以て責め，將に之を誅さんとす。**丕**は懼れ，**宣**の罪惡を誣いて以て自ら免かれんと求める。**興**は怒り，遣使して杏城に就き**宣**を收めて獄に下さしめ，**弼**に命じて三萬人を將して秦州に鎮せしむ。**尹昭**は曰く、
「**廣平公**は**皇太子**と平らかならず，今強兵を外に握り，**陛下**は一旦不諱（ふき）ならば，社稷は必ず危うし。『小さきを忍ばざれば，大謀を亂る』（論語の言）とは，**陛下**之謂い也。」
興は從わず。
夏［夏は後秦の内肛に乘じて杏城を取る］夏王の**勃勃**は秦の杏城を攻め，之を拔き，守將の**姚逵**を執り，士卒二萬人を坑（いきうめ）にす。秦王の**興**は北地に如き，廣平公の**弼**及び輔國將軍の**斂曼嵬**（れんまんかい）を遣わして新平に向かわしめ，**興**は長安に還る。

北涼 西秦［蒙遜と熾磐の激突］河西王の**蒙遜**は西秦の廣武郡を攻め，之を抜く。西秦王の**熾磐**は將軍の**乞伏魋尼寅**を遣わして**蒙遜**を浩宜に邀え，**蒙遜**は之を擊斬す。又た將軍の**折斐**等を遣わして騎一萬を帥いて勒姐嶺（甘粛省西寧道西寧県、現・青海省西寧市）に據らしめ，**蒙孫**は擊ちて之を禽にす。

●［饑胡の反乱鎮圧］河西の饑胡は上黨（現・山西省長治市楡社県）に相い聚まり，胡人の**白惡**（続は亞）**栗斯**を推して單于と為し，改元して建平とし，司馬の**順宰**（兵を起こす事、前巻２年にあり）を以て謀主と為し，魏の河内を寇す。夏，四月，魏主の**嗣**は**公孫表**等五將に命じて之を討たしむ。

■［劉敬宣の謀殺］青、冀二州刺史の**劉敬宣**の參軍の**司馬道賜**は，宗室之疏屬也。太尉の**裕**が**司馬休之**を攻めると聞き，**(7-149p)道賜**は同府の辟（罪人）の**閭道秀**、左右の小將の**王猛子**と與に**敬宣**を殺し，廣固に據りて以て**休之**に應ぜんと謀る。乙卯（閏四月なら元嘉暦五月３日），**敬宣**は**道秀**を召き，人を屏けて語り，左右は悉く戸を出る。**猛子**は逡巡して後に在り，**敬宣**の備身（護身）刀を取りて**敬宣**を殺す。文武佐吏は即時に**道賜**等を討ち，皆な之を斬る。

●己卯（閏四月なら元嘉暦五月２７日），魏主の**嗣**は北巡す。

西秦西秦王の**熾磐**の子の**元基**は長安より逃げ歸り（熾磐が後秦に称藩した時以来長安に滞在），**熾磐**は以て尚書左僕射と為す。

●五月，丁亥（元嘉暦六月５日），魏主の**嗣**は大寧に如く。

【司馬休之の後秦亡命】

■［司馬休之らの後秦亡命］**趙倫之**、**沈林子**は**魯軌**を石城に破り，**司馬休之**、**魯宗之**は之を救うも及ばず，遂に**軌**と襄陽に奔り，**宗之**の參軍の**李應之**は閉門して納れず。甲午（元嘉暦六月１２日），**休之**、**宗之**、**軌**及び譙王の**文思**、新蔡王の**道賜**（もう一人の司馬道賜、新蔡王晃は武陵王晞の事で廃せられ、後に道賜に爵を継がしむ）、梁州刺史の**馬敬**、南陽太守の**魯范**は俱に秦に奔る。**宗之**は素より士民の心を得，爭いて之が為に衛りて送り境を出る。**王鎮惡**等は之を追い，境に盡きて而して還る。

■［秦王興は休之を外に出す］初め，**休之**等は秦、魏に救いを求め，秦の征虜將軍の**姚成王**及び**司馬國璠**は兵を引いて南陽に至り，魏の**長孫嵩**は河東に至り，**休之**等の敗れるを聞き，皆な引いて還る。**休之**は長安に至り，秦王の**興**は以て揚州刺史と為し，襄陽を侵擾せ使む。待御史の**唐盛**は**興**に言って曰く、

「符讖（占い）之文に據れば，司馬氏は當に復た河、洛を得ん。今**休之**をして兵を外に擅にせ使むるは，猶ほ魚を淵に縱つがごとし也。高爵厚禮を以て，之を京師に留めるに如かず。」

興は曰く、

「昔**文王**は卒に羑裡（殷の紂は周の文王をここに囚える）を免れ，**高祖**は鴻門に斃れず。苟しくも天命の在る所，誰か能く之を違はん！脱し符讖之言の如しならば，之を留めるは適々害を為すに足らん。」

遂に之を遣る。

■［劉裕は着々位を昇る］詔して太尉の**裕**に太傅、揚州牧を加え，劍を履いて殿に上り，入朝して趨らず，贊拜するに名いらざらしむ。兗、青二州刺史の**劉道憐**を以て都督荊、湘、益、秦、寧、、雍七州諸軍事、驃騎將軍、荊州刺史と為す。**道憐**は貪鄙（粗暴で田舎者）にして，才能無し，**裕**は中軍長史の晉陵太守の**謝方明**を以て驃騎長史、南郡相と為し，**道憐**の府中の衆事は皆な**方明**に咨決せしむ。**方明**は，**沖**（奕の従子、方明は裕の従祖弟）之子也。

■［益州刺史の朱齡石と河西王の蒙遜の通行］益州刺史の**朱齡石**は遣使して河西王の**蒙遜**に詣らしめ，

朝廷の威德を以て諭す。**蒙遜**は舍人の**黄迅**を遣わして**齡石**に詣らしめ，且つ上表して言う、
「伏して聞く、車騎將軍の**裕**は中原を清めんと欲すと，願はくは右翼と為り，戎虜を驅除せん。」
夏［夏は蒙遜と結盟］夏王の**勃勃**は御史中丞の**烏洛孤**を遣わして**蒙遜**と結盟し，**蒙遜**は其の弟の湟河太守の**漢平**を遣わして蒞(のぞ)みて夏に盟わしむ。
西秦［西秦王の熾磐は湟河を襲う］西秦王の**熾磐**は衆三萬を帥いて湟河を襲い，**沮渠漢平**は之を拒み，司馬の**隗仁**を遣わして夜出でて**熾磐**を撃たしめ，(7-150p) 之を破る。**熾磐**は將に引いて去らんとし，**漢平**の長史の**焦昶**、將軍の**段景**は潛かに**熾磐**を召す，**熾磐**は復た之を攻め，**昶**、**景**は因りて**漢平**に出で降るを說く。**仁**は壯士百餘を勒して南門の樓に據り，三日下らず，力屈して，**熾磐**の禽らえる所と為る。**熾磐**は之を斬らんと欲し，散騎常侍の武威の**段暉**（南燕の段暉とは別人）は諫めて曰く、
「**仁**は難に臨みて死を畏れず，忠臣也，宜しく之を宥して以て君に事えるを厲(はげ)ますべし。」
乃ち之を囚える。**熾磐**は左衛將軍の**匹達**を以て湟河太守と為し，乙弗の**窟乾**を撃ち，其の三千餘戸を降して而して歸る。尚書右僕射の**出連虔**を以て都督嶺北（洪地嶺の北）諸軍事、涼州刺史と為す。涼州刺史の**謙屯**を以て鎮軍大將軍、河州牧と為す。**隗仁**は西秦に五年在り，**段暉**は又た之が為に請い，**熾磐**は之を免じ，姑臧に還ら使む。
●戊午六月（元嘉暦七月７日），魏主の**嗣**は行きて濡源に如き，遂に上谷、涿鹿、廣寧に至る。秋，七月，癸未（元嘉暦七月閏月２日），平城に還る。
西秦西秦王の**熾磐**は秦州刺史の**曇達**を以て尚書令と為し，光祿勳王の**松壽**を秦州刺史と為す。
■辛亥（３１日）晦，日食之れ有り。（日食があるなら１日のずれありか）
■八月，甲子（１４日），太尉の**裕**は建康に還り，太傅、州牧を固辭し，其の餘は命を受ける。豫章公の世子の**義符**を以て兗州刺史と為す。
■丁未（丁卯なら１７日、丁丑なら２７日），**謝裕**は卒す。**劉穆之**を以て左僕射と為す。
■九月，己亥（１９日），大赦す。

●［飢饉を避けて鄴に遷都するの議論］魏は比歳（連年）霜旱し，雲、代（雲中・代郡）之民は多く饑え死ぬ。太史令の**王亮**、**蘇坦**は魏主の**嗣**に言って曰く、
「讖書を按ずるに，魏は當に鄴に都し，豐樂を得る可し。」
嗣は以て群臣に問い，博士祭酒の**崔浩**、特進京兆の**周澹**は曰く、
「鄴に遷都するは，以て今年之饑を救う可くも，久長之計に非ざる也。山東之人は，國家の廣漠之地に居るを以て，其の民畜は涯(かぎ)り無しと謂(おも)い，號して曰う『牛毛之衆』。今兵を留めて舊都（平城）を守り，家を分けて南に徙り，諸州之地を滿たす能わず，郡縣に參居し，情は見え事は露わり，恐らく四方は皆な輕侮之心有り。且つ百姓は便ならず、水土，疾疫死傷する者は必ず多し。又，舊都（平城）の守兵は既に少なく，（赫連）屈丐(くっかい)、柔然將に窺窬(きゆ)（隙を覗う）之心有り，國を舉げて而して來れば，雲中、平城は必ず危うく，朝廷は恆、代千里之險（恆山から代に至る飛孤口・倒馬關・夏屋・黄昌・五廻の險）を隔て，以て赴き救い難し，此れ則ち聲實（名実）俱に損する也。今北方に居り，假令(かれい)山東に變有るも，我は輕騎にて南下し，林薄（草の叢生するステップ）之間に布濩（布露、流れ散る）せん，孰(たれ)か能く其の多少を知らん！百姓は塵を望みて懾服せん，此れ國家の諸夏を威制する所以也。來春草が生じ，湩酪（乳汁ここでは馬乳を固めたもの）將に出で，兼ねて菜果を以て，(7-151p) 得るに秋熟を以てせば，則ち事は濟まん矣。」
嗣は曰く、

「今倉は廩にして空しく竭き，既に以て來秋を待つ無し，若し來秋又た饑えれば，將に之を若何せん？」
對えて曰く、
「宜しく饑貧之戸を簡（選）びて，谷（穀物、続は食）を山東に就か使むべし。若し來秋復た饑えれば，當に更に之を圖し，但だ方に今遷都する可からざる耳。」
嗣は悅び，曰く、
「唯だ二人**朕**が意と同じくす。」
乃ち國人の尤も貧なる者を簡びて山東の三州（定州・相州・冀州）に詣りて食に就かしめ，左部尚書（魏は始め四方四維に八部大人を置き、東西南北左右前後。後に八部尚書を置く）の代人の**周幾**を遣わして衆を帥いて魯口に鎮して以て之を安集す。**嗣**は躬ずから藉田を耕し，且つ有司に命じて農桑を勸め課さしむ。明くる年，大いに熟し，民は遂に富み安んず。

夏［夏の平涼・新平侵攻］夏の**赫連建**は兵を將いて秦を擊ち，平涼太守の**姚周都**を執る。遂に新平に入る。廣平公の**弼**は與に龍尾堡（陝西省關中道岐山県、現・宝鶏市岐山県）に戰い，之を禽とす。
後秦［秦の後継者を巡る、興の葛藤と泓・弼］秦王の**興**は藥動（中毒）く。廣平公の**弼**は疾を稱して朝せず，兵を第に聚める。**興**は之を聞き，怒り，**弼**の黨の**唐盛**、**孫玄**等を收め之を殺す。**太子**の**泓**は請いて曰く、
「臣は不肖なり，兄弟を緝諧（和睦、協調一致）する能わずして，此くに至ら使むるは，皆な臣之罪也。若し臣死せば而らば國家は安ず，願はくは臣に死を賜はらん。若し**陛下**が臣を殺すを忍びずば，乞う退きて籓に就かん。」
興は惻然として之を憫み，**姚贊**、**梁喜**、**尹昭**、**斂曼嵬**を召して之と與に謀り，**弼**を囚え，將に之を殺さんとし，黨與を窮治す。**泓**は流涕して固く請い，乃ち其の黨を並（あわ）せて之を赦す。**泓**は**弼**を待つこと初めの如く，忿恨之色無し。
●［魏の太史の熒惑は後秦滅亡予言］魏の太史は奏す、
「熒惑は匏瓜（ほうか）（星座の名）の中に在り，忽ち亡（かく）れて在る所を知らず，法（推占の法）に於いて當に危亡之國に入るべし，先ず童謠妖言を為し，然る後に其の禍罰を行わん。」
魏主の**嗣**は名儒十餘人を召して太史と與に熒惑の詣る所を議せ使め，**崔浩**は對えて曰く、
「《春秋左氏傳》を按ずるに，『神は莘に降る』，其の至る之日を以て推だ其の物を知る。庚午之夕べは，辛未之朝なり，天に陰雲有り。熒惑之亡（かく）れるは，當に二日在るべし。庚之午とは，皆な秦を主（つかさど）る。辛（庚辛は西方なり）は西夷と為す。今**姚興**は長安に據り，熒惑は必ず秦に入らん矣。」
衆は皆な怒りて曰く、
「天上の失星は，人間は安んぞ詣る所を知らん！」
浩は笑い而して應ぜず。後に八十餘日，熒惑は東井に出で，留まり守りて句己（去って復た来る、鉤の様に曲がる）し，之久しく乃ち去る。秦は大いに旱し，昆明池は竭き，童謠訛言し，國人は安ぜず，一歲を間（隔）てて而して秦は亡ぶ。衆乃ち**浩**之精妙に服す。
後秦［後秦と魏の婚姻］冬，十月，壬子（２日），秦王の**興**は散騎常侍の**姚敞**等をして，其の女の**西平公主**を魏に送り，魏主の**嗣**は后禮を以て之を納れる。金人（拓跋氏の風習で、金人を鋳る必要あり）を鑄るは成らず，
（7-152p）乃ち以て夫人と為す，而して寵は甚だし。
●辛酉（１１日），魏主の**嗣**は沮洳城（下濕に在り）に如く。癸亥（１３日），平城に還る。十一月，丁亥（８

日），復た豺山宮に如く。庚子（２１日），還る。

西秦［西秦の南羌討伐］西秦王の**熾磐**は襄武侯の**曇達**等を遣わして騎一萬を將い，南羌の**彌姐**、**康薄**を赤水（甘粛省蘭山道隴西県、現・定西市隴西県）に撃ち，之を降す。**王孟保**を以て略陽太守と為し，赤水に鎮ぜしむ。

▲［北燕の遼東太守務銀提らの誅殺］燕の尚書令の**孫護**之弟の**伯仁**を昌黎尹と為し，其の弟の**叱支拔**と皆な才勇有り，燕王の**跋**の兵を起こす（慕容熙を殺す時、114 巻義熙三年にあり）に従いて功有り，開府を求めて得ず，怨言有り，**跋**は皆な之を殺す。**護**を開府儀同三司に進め、尚書事を録せしめ，以て其の心を慰め，**護**は怏怏として悅ばず，**跋**は之を鴆殺す。遼東太守の**務銀提**は自ら以て功有りとし，出でて邊郡と為り，怨望し，外に叛を謀り，**跋**は亦た之を殺す。

■林邑は交州を寇し，州將は撃ちて之を敗る。

安皇帝壬義熙十二年（丙辰，４１６年）

●春，正月，甲申（６日），魏主の**嗣**は豺山宮に如く。戊子（１０日），平城に還る。

■［劉裕は二十二州都督］太尉の**裕**に兗州刺吏、都督南秦州を加え，凡そ都督は二十二州。世子の**義符**を豫州刺史と為す。

後秦■［後秦の襄陽進攻失敗］秦王の**興**は**魯宗**之將兵をして襄陽を寇さ使め，未だ至らずして而して卒す。其の子の**軌**は兵を引いて入寇し，雍州刺史の**趙倫之**は撃ちて之を敗る。

西秦 北涼［初めて二国の和親］西秦王の**熾磐**は秦の洮陽公の**彭利和**を漒川に攻め，**沮渠蒙遜**は石泉を攻めて以て之を救う。**熾磐**は沓中に至り，引いて還る。二月，**熾磐**は襄武侯の**曇達**を遣わして石泉を救い，**蒙遜**は亦た引いて去る。**蒙遜**は遂に**熾磐**と結びて和親す。（南涼が滅びてより、毎年西秦と北涼は戦う）

【後秦の姚興の崩御に伴う混乱】

後秦［尹沖らは興の疾重しに乗じんとする］秦王の**興**は華陰に如き，**太子**の**泓**をして監國せ使め，入りて西宮に居る。**興**は疾篤く，長安に還り，黄門侍郎の**尹沖**は**泓**の出でて迎えるに因りて而して之を殺さんと謀る。**興**は至り，**泓**は將に出で迎えんとし，宮臣（東宮の官職の意）は諫めて曰く、

「**主上**は疾篤く，奸臣（尹沖等）は側に在り，**殿下**は今出でれば，進みて**主上**を見るを得ず，退きて不測之禍有り。」

泓は曰く、

「臣子は君父疾篤しを聞き而して端居して出でざれば，何を以て自ら安ぜん！」

對えて曰く、

「身を全くして以て社稷を安ぜんは，孝之大なる者也。」

泓は乃ち止む。尚書の**姚沙彌**は**尹沖**に謂って曰く、

「**太子**は出迎えず，宜しく乗輿を奉じて**廣平公**の第に幸さん（7-153p）。宿衛の將士が乗輿の所在を聞けば，自ら當に來集し，**太子**は誰と與に守る乎！且つ吾が屬は**廣平公**之故を以て，已に名を陷として節に逆う，將に何くの所にか自ら容れんや！今乗輿を奉じて以て事を舉げ，乃ち大順に杖（よ）れば，惟だ**廣平**之禍を救うのみならず，吾が屬の前の罪も亦た盡く雪（すす）がん矣。」

沖は**興**の死生未だ知る可からずを以て，**興**に隨いて宮に入りて亂を作（な）さんと欲し，**沙彌**之言を用いず。

■**興**は宮に入り，太子の**泓**に命じて尚書事を錄さしめ，東平公の**紹**（興の弟）及び右衛將軍の**胡翼度**をして兵を禁中に典（つかさど）り，内外を防制せしむ。殿中上將軍の**斂曼嵬**を遣わして**弼**の第中の甲仗を収めて，之を武庫に内れしむ。

■［興は最後の力を振り絞って弼に死を賜る］**興**の疾は轉（うた）た篤く，其の妹の**南安長公主**は疾を問い，應えず。幼子の**耕兒**は出でて，其の兄の南陽公の**愔**に告げて曰く、

「**上**は已に崩ぜり矣，宜しく速かに計を決すべし！」

愔は即ち**尹沖**と甲士を帥いて端門を攻め，**斂曼嵬**，**胡翼度**等は兵を勒して閉門して拒み戰う。**愔**等は壯士を遣わして門に登り，屋に緣いて而して入らしめ，馬道に及ぶ。**泓**は疾に侍りて咨議堂に在り，**太子**の右衛率の**姚和都**は東宮の兵を帥いて入りて馬道の南に屯す。**愔**等は進むを得ず，遂に端門を燒く。**興**は疾を力して前殿に臨み，禁兵は**興**を見，喜び躍り，爭いて進みて賊に赴き，賊衆は驚擾して，**和都**は東宮の兵を以て後より之を擊ちて**愔**等は大いに敗れる。**愔**は驪山に逃げ，其の黨の建康公の**呂隆**は雍に奔り，**尹沖**及び弟の**泓**は來たりて奔る。**興**は東平公の**紹**及び**妙贊**、**梁喜**、**尹昭**、**斂曼嵬**を引いて内寢に入り，遺詔を受けて政を輔けしむ。明くる日，**興**は卒す（年５１）。**泓**（興の長子、字は元子）は秘して喪を發さず，南陽公の**愔**及び**呂隆**、大將軍の**尹元**等を捕え，皆な之を誅す。乃ち喪を發し，**皇帝**に即位し，大赦し，改元して永和とする。**泓**は齊公の**恢**に命じて安定太守の**呂超**（呂隆の兄弟、弼に属す）を殺さしめ，**恢**は猶豫すること之久しく，乃ち之を殺す。**泓**は**恢**に貳心有るを疑い，**恢**は是に由りて懼れ，陰かに兵を聚めて亂を作（な）さんと謀る。**泓**は**興**を偶陵に葬し，謚して**文桓皇帝**と曰い，廟號を**高祖**とする。

後秦［形勢観望した姚宣は討たれる］初め，**興**は李平羌の三千戸を安定に徙す。**興**の卒するや、羌の酋黨の**容**は叛し，**泓**は撫軍將軍の**姚贊**を遣わして討ちて之を降し，其の酋豪を長安に徙し，餘は李閏（陝西省關中道大荔県、現・渭南市大荔県）に遣り還し，北地太守の**毛雍**は趙氏塢（陝西省關中道耀県、現・銅川市耀州区。孝武帝の太元九年、秦王堅は後秦を伐ちて屯す）に據りて以て叛し，東平公の**紹**は討ちて之を禽とす。時に**姚宣**は李閏に鎮し，參軍の**韋宗**は**毛雍**の叛するを聞き，**宣**に說いて曰く、

「**主上**は新たに立ち，威德は未だ著われず，國家之難は，未だ量る可からざる也，**殿下**は深慮為さざる可からず。邢望（陝西省關中道大荔県、現・渭南市大荔県）は險要にして，宜しく徙りて之に據るべし，此れ霸王之資也。」

宣は之に從い，戸三萬八千を帥い，李閏を棄て，南に邢望を保つ。諸羌は李閏に據りて以て叛し，東平公の**紹**は進みて討ちて之を破る。**宣**は**紹**を詣でて罪に歸し，**紹**は之を殺す。

【姚興没後の後秦を周辺勢力が蚕食】

■［劉裕は興没後の後秦の討伐を決意］二月，太尉の**裕**に中外大都督を加える。**裕**は戒嚴して將に秦を伐たんとする。**(7-154p)** 詔して**裕**に領司、豫二州刺史を加え，其の世子の**義符**を以て徐、兗二州刺史と為す。琅邪王の**德文**は戍路（王者）を啟（続は啓）行（出発）し，山陵を修敬せんと請う。詔して之を許す。

●夏，四月，壬子（５日），魏は大赦し，改元して泰常とす。

西秦西秦の襄武候の**曇達**等は秦の秦州刺史の**姚艾**を上邽に擊ち，之を破り其の民五千餘戸を枹罕に徙す。

■五月，癸巳（１７日），太尉の**裕**に領北雍州刺史を加える。（晉始め長安に雍州を置く。永嘉の乱後に流民が南遷して襄陽に雍州を置く。劉裕は長安を取らんとして北雍州を置く）

●六月，丁巳（１１日），魏主の**嗣**は北を巡る。

後秦［并州の胡の反乱］并州の胡の數萬落は秦に叛し，平陽に入り，匈奴の**曹弘**（匈奴の右賢王の曹轂の子の寅

の後）を推して大單于と為し，立義將軍の**姚成都**を匈奴堡（一種の匈奴保護区、山西省河東道臨汾県、現・臨汾市堯都区）に攻める。征東將軍の**姚懿**は蒲阪より之を討ち，**弘**を執り，長安に送り，其の豪右の萬五千落を雍州（安定に治す）に徙す。

後秦 仇地 夏［秦王興の没後、赫連勃勃等周辺の蚕食が始まる］氐王の**楊盛**は秦の祁山を攻め，之を拔き，進みて秦州に逼る。秦後將軍の**姚平**は之を救う，**盛**は兵を引いて退く。**平**は上邽の守將の**姚嵩**と之を追う。夏王の**勃勃**は騎四萬を帥いて上邽を襲い，未だ至らず，**嵩**は**盛**と竹嶺（甘粛省渭川道天水県、現・天水市）に戰い，敗死する。**勃勃**は上邽を攻めること二旬，之に克ち，秦州刺史の**姚軍都**及び將士五千餘人を殺し，因りて其の城を毀す。進みて陰密（陝西省涇原道靈臺県、現・平涼市霊台県）を攻め，又た秦將の**姚良子**及び將士萬餘人を殺す。其の子の**昌**を以て雍州刺史と為し，陰密に鎮せしむ。征北將軍の**姚恢**は安定を棄て，奔りて長安に還り，安定の人の**胡儼**等は戶五萬を帥いて城に據りて夏に降る。**勃勃**は鎮東將軍の**羊苟兒**をして鮮卑五千を將して安定に鎮ぜ使め，進みて秦の鎮西將軍の**姚諶**を雍城に攻め，**諶**は鎮を委（す）てて長安に奔る。**勃勃**は雍に據り，進みて郿城を掠す。秦の東平公の**紹**及び征虜將軍の**尹昭**等は步騎五萬を將いて之を擊ち，**勃勃**は退きて安定に趨き，**胡儼**は閉門して之を拒み，**羊苟兒**及び將いる所の鮮卑を殺し，復た安定を以て秦に降る。**紹**は進みて**勃勃**を馬鞍阪（甘粛省涇原道涇川県、現・平涼市涇川県）に擊ち，之を破り，追いて朝那に至り，及ばず而して還る。**勃勃**は杏城に歸る。**楊盛**は復た兄の子の**倦**を遣わして秦を擊ち，陳倉に至り，秦の**斂曼嵬**は擊ちて之を卻（しりぞ）く。夏王の**勃勃**は復た兄の子の**提**を遣わして南して池陽（晉書載記に池陽に作る、洩陽×、陝西省關中道三原県、現・咸陽市三原県）を侵さしめ，秦の車騎將軍の**姚裕**等を擊ちて之を卻く。

北涼 西涼［西涼は北涼攻擊を企画］涼の司馬の**索承明**は上書して涼公の**暠**に河西王の**蒙遜**を伐つを勸め，**暠**は引見し，之に謂って曰く、

「**蒙遜**は百姓の患と為り，孤り豈に之を忘れんや？勢力は未だ除く能わざるを顧みる耳。卿は必ず禽とする之策有れば，當に孤の為に之を陳べるべし。直ちに大言を唱えて，孤をして東討せ使むるは，此れ『**石虎**（石勒の從子）は小豎なり，宜しく諸（これ）を市朝に肆（さら）すべし』と言う者と何の異なるや！」

（7-155p）**承明**は慚く懼れ而して退く。

●秋，七月，魏主の**嗣**は牛川に大獵し，殷繁水（直隷省口北道懐來県、現・張家口市懐来県）に臨み而して還る。戊戌（２３日），平城に至る。

【劉裕の長安奪回作戦発動】

■八月，丙午（７日），大赦す。

■寧州は琥珀枕を太尉の**裕**に獻ずる。**裕**は琥珀は金創を治するを以て，之を得て大いに喜び，命じて碎搗（突き砕く）し北征の將士に分けて賜る。

■［長安攻略の為の留府人事］**裕**は世子の**義符**を以て中軍將軍と為し，太尉の留府事を監ぜしむ。**劉穆之**を左僕射と為し，監軍、中軍の二府軍司を領せしめ，入りて東府に居り，内外を總攝せしむ。太尉の左司馬の東海の**徐羨之**を以て**穆之**之副と為し，左將軍の**朱齡石**をして殿省を守衛せしめ，徐州刺史の**劉懷慎**をして京師を守衛せしめ，揚州別駕從事の**史張裕**を留州事に任ず。**懷慎**は，**懷敬**之弟也。

■［劉穆之の内外の超絶の仕事ぶり］**劉穆之**は内に朝政を總じ，外に軍旅を供し，決斷は流れる如く，事に擁滯（停滯）無し。賓客は輻湊し，求訴するは百端あり，内外の咨稟（諮問稟議）は，階に盈ち室を滿たす。目に辭訟を鑒（かんが）み，手に箋書に答え，耳に聽受を行い，口に酬應を並べ，相い參涉（混雜）せず，悉く皆な

贍舉（適切に処置）す。又た賓客を喜び，言談賞笑して，日を彌りて倦む無し。裁に閒暇有れば，手自ら書を寫し，尋鑒して校定す。性は奢豪，食は必ず方丈（孟子の食前方丈、珍味佳肴を丈四方に並べる），旦に輒ち十人の饌を為り，未だ嘗て獨り餐せず。嘗て**裕**に白して曰く、

「**穆之**の家は本々貧賤にして，贍生（衣食住の生活必需品）は多く闕く。叨りに忝なくするより以來，每に約損（簡約損滅）を存すると雖も，而して朝夕の須いる所は，微かに過豐と為す。此より外は，一毫も以て公に負かず。」

中軍咨議參軍の**張邵**は**裕**に言って曰く、

「人生は危脆なり，必ず當に遠く慮るべし。**穆之**が若し不幸に邂逅せば，誰か之に代わる可くや？尊業は此くの如し。苟くも不諱有れば，處分せんこと雲何？」

裕は曰く、

「此れ自から**穆之**及び卿に委ねる耳。」

■［劉裕の秦遠征軍は大挙して建康を発す］丁巳（１２日），**裕**は建康を發し，龍驤將軍の**王鎮惡**、冠軍將軍の**檀道濟**を遣わして步軍を將して淮、淝より許、洛に向かわしめ，新野太守の**朱超石**、寧朔將軍の**胡籌**をして陽城に趨かせ，振武將軍の**沈田子**、建威將軍の**傅弘之**をして武關に趨かせ，建武將軍の**沈林子**、彭城內史の**劉遵考**をして水軍を將いて石門に出で，汴より河に入らしめ，冀州刺史の**王仲德**を以て前鋒の諸軍を督さしめ，鉅野（澤の名、山東省済寧道鉅野県の北、現・菏沢市巨野県）を開いて河に入らしむ。**遵考**は，**裕**之族弟也。**劉穆之**は**王鎮惡**に謂って曰く、

「公は今卿に委ねるに秦を伐つ之任を以てす，卿は其れ之を勉めよ！」

鎮惡は曰く、

「吾は關中に克たずして，誓いて復た江を濟らず！」

■［諸軍の統括の難しさ］**裕**は既に行き，青州刺史の**檀祗**は廣陵より輒ち衆を帥いて塗中に至り亡命を掩討（不意打ち）す。**劉穆之**は**祗**の變を為さんと恐れ，議して軍を遣らんと欲す。時に**檀韶**は江州刺史為り，**張邵**は曰く、

「今**韶**は中流に據り，（7-156p）**道濟**は軍首（秦を伐つ諸軍の首）と為り，若し相い疑う之跡有れば，則ち大府（建康の留府）は立ちどころに危うきとなる，逆め遣わして慰勞して以て其の意を觀るに如かず，必ず患い無からん也。」

穆之は乃ち止む。

●［公孫表の胡人討伐の失敗］初め，魏主の**嗣**は**公孫表**（前年にある）をして**白亞栗斯**を討た使めて，曰く、

「必ず先ず秦の洛陽の戍將と相い聞き，河の南岸に備え使め，然る後に之を擊つべし。」

表は未だ至らず，胡人は**白亞栗斯**を廢し，更に**劉虎**を立てて率善王と為す。**表**は以えらく胡人內に自ら攜貳せんとす。勢いは必ず敗散せんとし，遂に秦將に告げず而して之を擊ち，大いに**虎**の敗る所と為り，士卒の死傷するは甚た衆し。

●［叔孫建を監軍にして劉虎を破る］**嗣**は群臣に謀りて曰く、

「胡は叛して年を逾え，之を討ちて克たず，其の衆は繁多にして，患と為るに日深し。今盛秋にして復た兵を發す可からず，民の農務を妨げれば，將に之を若何せん？」

白馬侯の**崔宏**は曰く、

「胡衆は多しと雖も，健將の之を御すは無く，終に大患と成る能わず。**表**等の諸軍は，足らずと為さず，

但だ法令は整わず，處分の宜しきを失い，以て敗れるに致る耳。大將の素より威望有る者を得て數百騎を將いて往きて**表**の軍を攝すれば，克たざるは無し矣。相州刺史の**叔孫建**は前に并州に在り，胡、魏の畏服する所と為り，諸將は及ぶ莫し，遣る可き也。」

嗣は之に從う，**建**を以て中領軍と為し，**表**等を督して**虎**を討たしむ。九月，戊午（戊子なら１４日），大いに之を破り，斬首は萬餘級，**虎**及び司馬の**順宰**は皆な死し，其の衆十萬餘口を俘とする。

■太尉の**裕**は彭城に至る，領徐州刺史を加える。太原の**王玄謨**を以て（徐州の）從事史と為す。

■［王廞の子の王華を徐州の主簿に登用］初め，**王廞**之敗れる也（109巻隆安元年），沙門の**曇永**は其の幼子の**華**を匿し，衣襆（衣服を包む風呂敷）を提さ使めて自ら隨い，津の（警）邏は之を疑う。**曇永**は**華**に呵して曰く、

「奴子何ぞ速かに行かざる！」

之を棰（むちう）つこと數十，是に由りて免かるるを得る。赦に遇いて，吳に還る。其の父の存亡は測らざるを以て，布衣蔬食し，交遊を絕ち仕えざること，十餘年。**裕**は**華**の賢きを聞き，之を用いんと欲し，乃ち**廞**の喪を發し，**華**をして服を制さ使む。服闋（おわ）り，闢（め）（続は辟）して徐州の主簿と為す。

■［後秦領土に侵入した劉裕軍は快進撃］**王鎮惡**、**檀道濟**は秦の境に入り，向かう所皆な捷つ。秦將の**王苟生**は漆丘（河南省開封道商邱県、現・商丘市睢陽区）を以て**鎮惡**に降り，徐州刺史の**姚掌**は項城を以て**道濟**に降り，諸屯守は皆な風を望みて款附（真心から付き従う）す。惟だ新蔡（郡、河南省汝海道新蔡県、現・駐馬店市新蔡県）太守の**董遵**は下らず，**道濟**は攻めて其の城を拔き，**遵**を執り，之を殺す。進みて許昌に克ち，秦の潁川太守の**姚垣**及び大將の**楊業**を獲る。**沈林子**は汴より河に入り，襄邑人の**董神虎**は衆千餘人を聚めて來降す。太尉の**裕**は版じて參軍と為す。**林子**は**神虎**と共に倉垣を攻め，之に克ち，秦の兗州刺史の**韋華**は降る。**神虎**は擅（ほしいまま）に襄邑に還り，**林子**は之を殺す。

後秦［後秦の根本たる、安定と長安の維持戦略］秦の東平公の**紹**は秦主の**泓**に言って曰く、

「晉兵は已に許昌を過ぎる，安定は孤遠にして，以て救衛し難し，(7-157p) 宜しく其の鎮戶（姚萇の興るや、安定を根本とし、關中を得ても安定を重鎮とし、民を移してこれを鎮戸という）を遷して，內に京畿を實たし，精兵十萬を得る可く，晉、夏交々（こもごも）侵すと雖も，猶ほ國を亡ぼさず。然らずんば，晉は豫州を攻め，夏は安定を攻め，將ら之を若何せんや？事機は已に至り，宜しく速決に在るべし。」

左僕射の**梁喜**は曰く、

「**齋**（続、劉×）**公恢**は威名有り，嶺北の憚る所と為る，鎮人（鎮兵は常に勃勃と交戦して父兄子弟みな仇ありをいう）は已に**勃勃**と深く仇し，理は應に守死して貳無し。**勃勃**は終に安定を越えて遠く京畿を寇す能わず。若し安定無ければ，虜馬は必らず鄙に至らん。今關中の兵は晉を拒（ふせ）ぐを以て足り，豫（あらかじ）め自ら損削するは為す無き也。」

泓は之に從う。吏部郎の**懿橫**は密かに**泓**に言って曰く、

「**恢**は廣平之難に於いて，忠勳は**畢下**（続は陛下）に有り。**陛下**が龍飛して統を紹（つ）ぎしより，未だ殊賞の其の意に答えると為るに有らず。今外は則ち之れ死地に置き，內は則ち朝權に豫らず，安定の人は自ら孤り危きにして寇の逼るを以て，南に遷らんと思う者は十室に而して九なり，若し**恢**が精兵數萬を擁し，鼓行して而して京師に向かえば，社稷之累（わずらい）と為らざるを得ん乎！宜しく征（続は徵）して朝廷に還し以て其の心を慰むべし。」

泓は曰く、

「**恢**が若し不逞之心を懷けば，之を征（続は徵）するは適々（たまたま）禍を速かにする所以耳。」

又た從わず。
■［劉裕は魏に道を借りんと欲す］王仲德の水軍は河に入り，將に滑台に逼らんとす。魏の兗州刺史の尉建は畏懦し，衆を帥いて城を棄て，北に河を渡る。仲德は滑台に入り，宣言して曰く、
「晉は本々布帛七萬匹を以て魏に道を假りんと欲し，謂わず魏之守將が城を棄てて遽に去らんとは。」
魏主の嗣は之を聞き，叔孫建、公孫表を遣わして河内より枋頭に向かわしめ，因りて兵を引いて河を濟り，尉建を城下に斬り，屍を河に投げる。仲德の軍人を呼び，問うに侵寇之狀を以てす。仲德は司馬の竺和之をして對えて曰は使む、
「劉太尉は王征虜をして河より洛に入り，山陵を清掃せ使めんとし，敢えて魏に寇を為すに非ざる也。魏之守將は自ら滑台を棄てて去り，王征虜は空城を借りて以て兵を息め，行々當に西に引き，晉、魏之好みに於いては廢する無き也，何ぞ必ずしも旗を揚げ鼓を鳴らして以て威を曜かす乎！」
嗣は建をして以て太尉の裕に問わ使め，裕は遜辭して之を謝して曰く、
「洛陽は，晉之舊都なり，而して羌（後秦）は之に據る。晉は山陵を修復せんと欲すること久しき矣。諸桓（桓謙等の桓玄一党）の宗族，司馬休之、國璠兄弟，魯宗之父子は，皆な晉之蠹（木食い虫）也，而して羌は之を收めて以て晉の患と為る。今晉は將に之を伐たんとし，魏に道を假りんと欲すは，敢えて不利と為すに非ざる也。」
魏の河内の鎮將の於栗磾は勇名有り，壘を河上に築き以て侵軼（侵し突く）に備える。裕は書を以て之に與え，題は曰く「黑槊（黒い柄の長矛、１丈８尺の馬上用）公の麾下」。栗磾は黑槊を操るを好み以て自ら標とす，故に裕は此を以て之に目く。魏は因りて栗磾を拜して黑槊將軍と為す。
●冬，十月，壬戌（１８日），魏主の嗣は豺山宮に如く。(7-158p)
●▲［庫辱官を巡る北魏と燕のせめぎあい］初め，燕將の庫辱官斌（庫莫・庫辱は北魏・北燕の隣接地）は魏に降り，既に而して復た叛して燕に歸る。魏主の嗣は驍騎將軍の延普を遣わして濡水を渡りて斌を擊たしめ，之を斬る。遂に燕の幽州刺史の庫辱官昌、征北將軍の庫辱官提を攻めて，皆な之を斬る。

【後秦の洛陽は陷落】

後秦［趙玄の奮戦と敗死、洛陽陷落］秦の陽城、滎陽の二城は皆な降り，晉兵は進みて成皐に至る。秦の征南將軍の陳留公の洸は洛陽に鎮し，遣使して救いを長安に求む。秦主の泓は越騎校尉の閻生を遣わして騎三千を帥いて之を救わしめ，武衛將軍の姚益男は步卒一萬を將して洛陽を助け守らしめ，又た并州牧の姚懿を遣わして南に陝津（河南省河洛道陝県の黄河の渡津、現・三門峡市陝州区）に屯し，之の聲援と為さしむ。寧朔將軍の趙玄は洸に言って曰く、
「今晉の寇は益々深く，人情は駭動し，衆寡敵せず，若し出で戰いて捷たざれば，則ち大事は去る矣。宜しく諸戍之兵を攝め，固く金墉を守り，以て西師之救いを待たん。金墉が下らざれば，晉は必ず敢えて我を越えて而して西せず，是れ我は戰わず而して坐して其の弊を收める也。」
司馬の姚禹は陰かに檀道濟と通じ，主簿の閻恢、楊虔は，皆な禹之黨也，共に玄を嫉み，洸に言って曰く、
「殿下は英武之略を以て，任を方面を受ける。今城に嬰りて弱きを示せば，朝廷の責める所と為る無きを得る乎！」
洸は以て然りと為し，乃ち趙玄を遣わして兵千餘を將して南に柏谷塢（河南省河洛道靈寶県、現・三門峡市霊宝市）を守らしめ，廣武將軍の石無諱をして東に鞏城を戍らしむ。玄は泣いて洸に謂って曰く、
「玄は三帝（姚萇・姚興・姚泓）の重恩を受け，守る所は正に死有る耳。但だ明公は忠臣之言を用いず，奸人

の誤まる所と為り，後に必ず之を悔いん。」
既に而して成皋（現・鄭州市滎陽市汜水鎮）、虎牢（現・鄭州市滎陽市汜水鎮）は皆な來降し，**檀道濟**等は長驅而して進み，**無諱**は石關に至り，奔（続は犇）りて還る。龍驤司馬の滎陽の**毛德祖**は**玄**と柏谷に戰い，**玄**の兵は敗れ，十餘創を被り，地に據りて大呼す。**玄**の司馬の**蹇鑒**（けんかん）は刃を冒して**玄**を抱き而して泣き，**玄**は曰く、
「吾が創は已に重し，君は宜しく速かに去れ！」
鑒は曰く、
「將軍を濟（すく）はずんば，**鑒**は去りて安くに之かん！」
之と與に皆な死す。**姚禹**は城を逾えて**道濟に**奔り，甲子（２０日），**道濟**は進みて洛陽に逼る。丙寅（２２日），**洸**は出でて降る。**道濟**は秦人の四千餘人を獲り，議する者は盡く之を坑（あな）にして以て京觀（尸を積んで土で封じる）と為さんと欲す。**道濟**は曰く、
「罪を伐ちて民を弔う，正に今日に在り！」
皆な釋して而して之を遣る。是に於いて夷、夏は感悅し，之に歸する者甚だ衆し。**閻生**、**姚益男**は未だ至らず，洛陽の已に沒するを聞き，敢えて進まず。
■己丑（４５日?），詔して兼司空の高密王の**恢之**を遣わして五陵（洛陽郊外の晉の王墓）を修謁し，守衛を置く。太尉の**裕**は冠軍將軍の**毛修之**を以て河南、河内二郡太守と為し，司州事を行わしめ，洛陽に戍せしむ。
西秦西秦王の**熾磐**は秦州刺史の**王松壽**をして馬頭に鎮せ使め，以て秦之上邽に逼る。
●十一月，甲戌（１日），魏主の**嗣**は平城に還る。

■［劉裕の見え透いた九錫要求と辞退］太尉の**裕**は左長史の**王弘**を遣わして建康に還らしめ，諷して朝廷に九錫を求めしむ。時に**劉穆之**は留任を掌（つかさど）り，**(7-159p)** 而して旨は北より來たり，**穆之**は是に由りて愧じ懼れて發病す。**弘**は，**珣**（桓温の重しとする、後に孝武の叙任される）之子也。十二月，壬申（２９日），詔して**裕**を以て相國、總百揆、揚州牧と為し，十郡に封じて宋公と為し，九錫之禮を備え，位は諸侯王の上に在り，征西將軍、司、豫、北徐、雍四州刺史を領さしめるは故の如し，**裕**は辭して受けず。
西秦西秦王の**熾磐**は遣使して太尉の**裕**に詣り，秦を擊ちて以て自ら效（いた）さんを求る。**裕**は**熾磐**を拜して平西將軍、河南公とす。
後秦［姚懿反乱計画］秦の**姚懿**の司馬の**孫暢**は**懿**を說いて長安を襲い，東平公の**紹**を誅し，秦主の**泓**を廢して而して之に代わら使めんとす。**懿**は以て然ると為し，乃ち谷（穀物）を散じ以て河北の夷、夏に賜わりて，私の恩を樹てんと欲す。左常侍の**張敞**、侍郎の**左雅**は諫めて曰く、
「**殿下**は母弟を以て方面に居り，安危は休戚し，國と之を同じくす。今吳寇は内に侵す。四州（徐州・兗州・豫州・荊州）は傾沒し，西虜（夏・北涼）は邊を擾し，秦、涼は覆敗し，朝廷之危きは，累卵の如き有り。谷（穀物）者，國之本也，而るに**殿下**は故無くして之を散じるは，虛しく國儲（国家の貯蓄）を損す，將に之を若何せん？」
懿は怒り，笞ちて之を殺す。
後秦**泓**は之を聞き，東平公の**紹**を召き，密かに之と與に謀る。**紹**は曰く、
「**懿**の性識は鄙にして淺く，物に從いて推移す。此の謀を造（な）す者は，必ず**孫暢**也。但だ使いを馳せて**暢**を征（続は徵）し，撫軍將軍の**贊**を遣わして陝城に據らしめ，臣は潼關に向かいて諸軍の節度と為らん，若し**暢**が詔を奉じて而して至れば，臣は當に**懿**を遣わして河東の見兵を帥いて共に晉師を禦がん。若し詔命を受けざれば，便ち當に其の罪を聲して而して之を討たん。」

泓は曰く、
「叔父之言は，杜稷之計也。」
乃ち**姚贊**及び冠軍將軍の**司馬國璠**、建義將軍の**虵玄**を遣わして陝津に屯せしめ，武衛將軍の**姚驢**を潼關に屯せしむ。
後秦［**姚懿の挙兵、討伐**］**懿**は遂に舉兵して**帝**を稱し，州郡に檄を傳え，匈奴堡の谷（穀物）を運んで以て鎮人に給せんと欲す。寧東將軍の**姚成都**は之を拒み，**懿**は卑辭して之を誘い，佩刀を送りて誓いと為し，**成都**は從わず。**懿**は驍騎將軍の**王國**を遣わして甲士數百を帥いて**成都**を攻め，**成都**は擊ちて之を禽とし，遣使して**懿**に讓りて曰く、
「**明公**は至親を以て重任に當たり，國危きにも救う能わず，而して更に望み非ざるを圖るか。三祖（姚戈仲・姚萇・姚興）之靈は，其れ肯えて**明公**を佐(たす)けん乎！**成都**は將に義兵を糾合して，往きて**明公**に河上に見えんとする耳。」
是に於いて檄は諸城に傳わり，逆順を以て諭し，兵を徵し食を調して以て**懿**を討つ。**懿**も亦た諸の城兵を發し，應ずる有る者莫し，惟だ臨晉の數千戸は**懿**に應じる。**成都**は兵を引いて河を濟り，臨晉の叛する者を擊ち，之を破る。鎮人の安定の**郭純**等は兵を起こして**懿**を圍み。東平公の**紹**は蒲阪に入り，**懿**を執り，**孫暢**等を誅す。
●［**叔孫俊の桓氏の殉死合葬を魏主は勧める**］是の歳，魏衛將軍の安城孝元王の叔孫の**俊**（嗣の立つに功あり115巻義熙四年にあり）は卒す。魏主の**嗣**は甚だ之を惜しみ，其の妻の**桓氏**に謂って曰く、
「生きて其の榮を同じくす，能く沒して其の戚を同じくす乎（殉死を勧める）？」
桓氏は乃ち縊れ而して祔（合葬）す焉。
●［**丁零の翟猛雀の乱**］丁零の**翟猛雀**は吏民を驅略し，白澗山（山西省河東道陽城県、河東道に陽城県無し）に入りて亂を為す。魏の内都大官の河内の**張蒲**は冀州刺史の**長孫道生**と之を討つ。**道生**は，**嵩**之從子也。**道生**は兵を進めて**猛雀**を擊たんと欲し，**蒲**は曰く、
「吏民は亂を為すを樂しむに非ず，**猛雀**の迫脅する所と為る耳。今分別せず，並せて之を擊てば，善に返らんと欲すと雖も，其の道は由無く，必ず心を同じくして協力し，險に據りて以て官軍を拒まん，未だ猝(にわか)に平げ易きにあらず也。先ず遣使して之を諭すに如かず，**猛雀**と謀を同じくせざる者は皆な坐せざるを以てせば，則ち必ず喜びて而して離散せん矣。」
道生は之に從い，降る者は數千家，舊業に復せ使む。**猛雀**は其の黨の百餘人と出でて走り，**蒲**等は追いて**猛雀**の首を斬り，左部沿書の**周幾**は餘黨を窮討し，悉く之を誅す。

令和2年8月14日	完訳開始	8891文字	
令和2年8月16日	完訳終了	17416文字	
令和2年12月2日	微修正	17740文字	年表・現代地名対応
令和3年12月30日	書下し終了	17920文字	